

第 7 回

円山動物園リスタート委員会

会 議 録

第7回 円山動物園リスタート委員会

- 1 日 時 平成19年1月31日(水) 13:00から14:30
- 2 場 所 メルパルク札幌(札幌市中央区南1条西27丁目1-10)
- 3 出席者 委 員:大谷薫、岡田典子、きくち美由紀、小宮輝之、服部信吾、原はるみ、原田昭、山本光子、笠康三郎
事務局:円山動物園園長、種の保存担当部長、管理課長、飼育課長 ほか
- 4 議 事
 - (1) 基本構想(行政案)の報告
 - (2) 市立大の研究報告
 - (3) 次回議題と日程調整

1. 開 会

原田委員長 それでは、まだいらっしゃらない委員の先生方がいらっしゃるようですねども、第7回円山動物園リスタート委員会を開催したいと思います。

まず初めに、きょうの出席の確認をしていただきます。

金澤園長 欠席は、大川委員、斉藤委員、高木委員、それから、急遽、連絡がありまして、小林委員の4名が欠席になっております。

また、岡田委員は、ご連絡がないので、もうすぐ見えるのではないかなと思います。

原田委員長 きょうは、お忙しい中をお集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

新聞等でご存じのことと思いますけれども、ゾウの花子さんが亡くなったということで、さすがに、いざとなりますと、やはり非常に存在感が大きかったのだなと感じております。この後どうするかというような問題も、このリスタート委員会の構想計画の中で考えていかなければいけないところであるなと思っているところでございます。

それでは、まず、きょうの資料の確認をさせていただきます。お願いいたします。

金澤園長 今まで過去6回委員会をやっている中で、今回は一番資料が少なくなっております。

資料1、札幌市円山動物園基本構想(案)と、資料2、委員会報告があります。それから、感性科学ということで二つありますが、これは委員長の方からつけていただいた資料で、合わせて4点ございますので、よろしくをお願いいたします。

2. 議 事

原田委員長 それでは、きょうの進め方でございますが、会議次第に書いてありますとおり、きょうは14時30分を限度として進めさせていただきます。

まず最初に、議題の1といたしまして、基本構想(行政案)の報告について、園長からお願いいたします。

金澤園長 まず、報告させていただきます前に、動物園の飼育動物にかかわる報告を先にさせていただきますと思います。

冒頭委員長の方からもお話しありましたように、アジア象の花子ですが、28日、日曜日、実は早朝6時の時点ではまだ元気に立っていたのですが、その後、体調を崩しまして、7時の時点では、寝ているというか、倒れていた状態で発見されました。その後、職員の懸命な看護にもかかわらず、実は4トンの体重があるものですから、何とか立ち上げないことには衰弱してしまうということで、立ち上げる努力をしました。しかし、ちょっとむなしい結果だったのですが、その日の11時32分に逝去したところでございます。

花子は、開園してから3年目の昭和28年に動物園に来園以来、人気者となりまして、それこそ円山動物園のシンボルとして市民に親しまれてきました。昨年7月には60歳の誕生日を迎え、盛大に還暦を祝い、その中で長寿を願いつつも、残念ながら28日に逝去

してしまいました。

そういった意味では、花子を応援いただきました皆様に感謝を申し上げますとともに、ここに謹んで報告をさせていただきます。

なお、追悼の会につきましては、2月10日1時半から、市長出席のもと、行う予定でございます。

また一方では、この世を去るものもあれば、生を受けるものがございます。けさの新聞を見てご存じの方もおられると思いますが、希少動物のチンパンジーのガチャというのがいまして、推定40歳、人間の年齢に換算しますと70歳相当の年齢なのですが、昨日、男の赤ちゃんを出産しました。今のところ、母子ともに健在で元気に生活しております。チンパンジー館は、トニーを父親にして、その一家9頭のところにもう1頭ふえて10頭となりますから、これからまた当分はにぎやかな家族生活になるのかなと思います。

それでは、資料の方を報告させていただきたいと思います。

まず、12月18日、前回、第6回目のリスタート委員会後の経過を簡単に報告させていただきます。12月18日の委員会では、多少の修正がございましたが、中間報告としてまとめさせていただくことができました。これを受けまして、1月10日に、原田委員長から、こちらのお手元でございます資料2、札幌市円山動物園リスタート委員会基本構想案(委員会報告)というのをもちまして、上田市長あてに報告をさせていただきました。その後、私ども動物園では、鋭意、作業を進め、関係部局との調整、関係部長会議、局長会議等を経まして、今週の月曜日ですが、29日に、札幌市としての最高意思決定機関になります市長・副市長会議で了承をいただきました。これで、皆様にご議論いただきました基本構想案は行政案として成立したということになります。

お手元の資料1になりますが、これはもう既にパブリックコメント用のフォーマットになっておりますけれども、この基本構想案を市民に配布して、2月15日から約1カ月間、ご意見の募集を行いたいと思います。そして、3月末には札幌市の本当の行政計画として完成させていきたいと考えております。

この間、皆様には、タイトなスケジュールにもかかわらず集中的にご議論いただき、かつご尽力いただきましたことに、本当に感謝申し上げます。

私どもは、正直に言って、よくここまで来たなという気持ちの方が先でして、あとは、これから約2カ月、意見を聞きながらまとめる作業をやっていきたいと思っています。

それでは、資料1、2の委員会案と行政案との主な変更点を説明させていただきたいと思います。正直に言いますと、全体的に行政案の方は見せ方を整理するというところで、若干、雰囲気は変わっております。内容的には全然変わっていませんが、変わったところが一部ありますので、それは後ほどお話しさせていただきます。

それでは、資料1と資料2を見比べながら説明させていただきます。

まず、委員会報告の方の1ページ、下から2行の部分ですが、このところは、はじめにという下段のところ、委員会が要請しますという表現だったものを、行政案の方では、

札幌市が策定しましたと修正してございます。したがって、すべての中身が、札幌市が策定するという表現に変わっております。

次に、委員会報告の10ページから12ページにかけてですが、ここは三つの柱の記載方法のところでございます。

これは、委員会案の中では見出し風の表現が、行動指針ではなくて具体的な事業が前面に出ているため、具体的な事業を囲み記事にして、行動指針となるように内容についても見出しをつけ、このように変更してございます。そういった意味では、ここでちょっと雰囲気が変わってきております。例えば、10ページを見ますと、「『私の動物園』という視点からの行動」のところに、もともとであればアニマルファミリー制度が出ておりますが、その下にそれぞれ小さな見出しをつけながら、こういう展開をしていきますというつくりに変えてございます。文章や内容はほとんど変えていません。ただ、見出しをちょっとつけたただけでございます。

それから、委員会報告の11ページですが、3本目の柱で、ちょうど「円山エリアのまちづくりをリードする行動」という表現のところでは、

これは、行政案の方では、「自然豊かな円山エリアの中核施設としての行動」というふうに変更しました。これは、まちづくりという言葉の概念が広いことから、地元調整は慎重にする必要があるという理由から、申しわけないのですが、行政の中で変更させていただき、修正しております。あと、中は同じでございますが、見出しをちょっと変えるようにしております。

それから、委員会報告の11ページ、行政案では12ページになります。

これは、何回もご議論いただいていた円山動物公園構想ですが、市の中でも、正直に言ってなかなか十分な調整ができなかったことと、やはり、円山公園という名前がついてから何年もたっていて、市民、地元の皆さんとの調整に慎重を要するところから一たんは時期尚早ということで判断されまして、私どもも頑張ったのですが、ここでは動物公園という名前が消えてございます。

ただ、局長会議の中でも出ていたのですが、将来的には動物公園構想というのはありだから、これからしっかり市民議論できるように、今から少しずつ見せ方を変えていく努力というのは必要だという議論になってございます。公園サイドからは、趣旨には賛同するが、名称についてはいろいろ考えなければならないというような意見も出ています。

それから、委員会報告の12ページ、行政案の方は13ページになります。

これは、基本構想の取組期間のところですが、点線で囲っているところの図をわかりやすく整理しました。それから、その下に基本構想の構造図ということで、この基本構想の体系をちょっと簡単に整理しました。

それから、委員会報告の17ページ、18ページ、行政案の方では18から20ページにまたがります。

委員会案ではイメージパースを何枚もつけるような仕組みになってございましたが、今回、

イメージパースについては、委員長にいろいろご努力いただきまして、何とか1枚にうまくまとまったものですから、そういった意味では、本文中に入れなくて、20ページに絵を入れました。冊子の方のは白黒になっていますけれども、お手元にこの1枚物を配ってございますので、これが本物で、カラー刷りのものです。これを単に縮小して白黒にしたのが行政案の方の20ページでございます。

それから、委員会報告の方の20ページ、マネジメントのところ、行政案の方では21ページになります。

前段のところに、円山動物園の経営面のことをちょっとつけ加えました。委員会報告の方では、いきなりそのままストレートに入っていたので、市民にわかるようにということで、短い文章ですが、経営の視点をつけ加えました。

それから、委員会報告の21ページの中で、最初に「単年度黒字経営を目指して」とございますが、この「単年度黒字」という表現を、行政案では、22ページにあるとおり、「基礎収支構造の均衡を目指して」というふうに表現を変えてございます。

これは、正直に言いまして、単年度黒字と言いましても、人件費とかは除外していて、市民に誤解を招くおそれもあるかなと思いまして、基礎収支構造という表現に変えさせていただきます。文章等は全くいじっておりません。

以上が主な変更点でございます。

私の方からは以上です。

原田委員長 ありがとうございます。

以上、中身につきましてはそう変わっていないというふうに思いますけれども、あえて言うならば、円山動物公園という名称が引っ込んで、時期を見てこういうような形で交渉するように努力してはどうかというような意見が記載されているということでございます。

あとは特に大きく変わっているようには思いませんが、委員の先生方からこれにつきましてご意見、あるいはご質問等いただければと思います。いかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

原田委員長 それでは、このような基本構想案として、あるいは、今、これをベースにしてパブリックコメントを集める段階に入ったということでございますが、この募集期間は2月15日から3月16日まで約1カ月間ということでございます。総体的に見て、このような経緯で今はそういう状況にあることにつきまして、小宮委員にご意見をいただければと思います。

小宮委員 こうやって構想ができ上がり、実現するには、13ページあたりに出ている構想の取り組み期間できちんと続けてできることが、要するに、具体的な基本計画ができて、それぞれの実施計画がうまく動き出すことが、本当に動物園を変えていく基本になると思うので、これができて、その次の段階にすぐに動き出さないといけないのだろうなと思います。

それから、やはり基本計画とか実績を考えたときに具体的なことが出てこなければいけ

ないのですが、僕が心配していた花子のことですけれども、まだ生きているときに、円山動物園は象を飼うか飼わないかを市民に問うた方がいいのではないですかと。そのことが本当に現実のものになってしまいました。象に限らず、チンパンジーなんかもそうですけれども、動物の飼い方について、動物園としても、倫理規定でもっておかしい飼い方ができないように、あるいは、花子のようにシンボルとして1頭だけというのはもうこれからあり得ない。要するに、繁殖につながらないということになると輸入もできません。ですから、本当にこれをいい機会に、これからどうするかという議論が具体的にできるような気がします。

山本委員 パブリックコメントの募集の仕方というのは、どんなお知らせになっているのでしょうか。

金澤園長 まず、この冊子は、1,000部近くつくりまして、各区役所など出すところが決まっておりますので、それぞれそうしたところに出します。そのほか、ホームページ上にも出します。また、当然、マスコミにも公表しますし、広報さっぽろにも載せてこういうパブリックコメントを募集しますということで全部対応します。そういった意味では、結構広い範囲では出せると思います。そのほか、我々が持って行って、あったら出してというところまでやります。

山本委員 来園される方にもご案内をするのでしょうか。

金澤園長 当然知っているという前提と言ったら変ですけれども、そういうものをやっていますというポスターみたいなものを出していきます。

笠委員 半年前に札幌市の景観計画のパブリックコメントをやったのですけれども、全然来ないのですよ。関係機関とか説明会も全部やっているのですけれども、やっぱり来ないのですね。だから、投げかけ方というのをもうちょっと絞っていかないと、なかなか団体の頭だけに渡しても、下まで全く流れていかないと、せっかくあれだけのものをつくるのに、パブリックコメントが随分少なく、ちょっとがっかりというような話だったのです。

金澤園長 実は、市民の興味を引くテーマかどうかがすごく大きいのです。逆に言うと、動物園は結構出てくるのかなと私は思っています。

ただ、出てきたときには、今まで皆さんにご議論いただいている基本構想の話ではなくて、実施に近い方の意見が多く出るのではないかという感じがしています。

笠委員 何とかグッズをつくるとか、DVDを出すとか、そういう方が結構いらっしゃるのですね。

金澤園長 見せ方をこう変えたらいいとか、きっとそういうことが具体的に出てくるのかなと。そういった意味では、ことし、まさに基本計画、実施計画をつくっていく材料というか、アイデアにはすごくなるかなと思っています。

笠委員 ぜひともマスコミにどんどん大きく出してもらって、せっかくの機会なので意見を出していただければと思います。

山本委員 何で申したかという、いろいろな方法で周知はされるでしょうけれども、やっぱり、円山エリアの中で、地域の中でというような議論もしてきたので、札幌市の動物園だから当然広く市民に意見を募集するけれども、できれば地域の方々からも具体的な意見が出てくるとなおさらいいかなと思って申し上げました。地域に密着した形で地域からの声もきちんと聞き取れるようなことができたらいいなというふうに思います。

金澤園長 地域の部分については、隣接している町内会、まちづくりセンターで言えば、宮の森、円山、南円山と3カ所ありますので、こういったところは話をします。

また、具体的には、今、宮の森地区の方々とはいろんなイベントの手助けもお互いにしましょうということになっていますから、そういったところでは、この基本構想の中でも地域との連携ということではもう既に実施、実践に入ってきていますから。実は、動物と直接関係ないのですが、今週末に、子どもたちが楽しめるように園内に氷のスロープをつくらうと思っています。雪まつりの期間とダブらせるのですが、それをつくる作業も町内の方にご協力をいただくとか、イグルー、雪の家をつくるのに日本山岳会も協力してくれています。

そういうふうにして、やっぱり地元の方々と一緒にできる、そして楽しめるというところが、これからの動物園は、それこそわたしの動物園の目標はそこですから、そういった動きはもう既にしております。

笠委員 特に西町の児童会館なんてこの口ができればすぐ隣同士になるから、その面では、ここは何口と言うのか、そこをあけてくれれば随分感じがよくなる。

金澤園長 その児童会館も今ペットボトルを集めていますね。そのペットボトルを何に使うかという、2リットルのペットボトルを集めているのですが、ノルディックのときに、ライトアップをやらうとしているのです。動物園もその中の一部なので、動物園も一緒になってそれをやらうと。円山から大倉山シャンツェまでを一つの明かりの道にしようという考えでやっています、そういうふうに一つ一つ細かいところからタイアップしながら取り組んでおります。

原田委員長 確かに、円山エリアのまちづくりということをやっていたのですが、最終的にはそういう文言はないような感じですけども、文章の中ではそれはあるのですか。

金澤園長 文章の中ではまちづくりというのはそのまま残っています。

原田委員長 周辺施設と連携して検討することが重要になりますというような書き方になっていますね。そういうわけですので、周辺の住民の方々と同時に、まちづくりセンターを含めて、周りの施設関係者の考えもダイレクトにお答えいただきたいなというふうに思いますね。

金澤園長 先日、大倉山シャンツェのミュージアムの館長と彫刻美術館の館長と私の3人でお会いしまして、とりあえず、今、どうできるかと議論を始めました。というのは、どうしても役所の施設があるので、それを中核にしながら、それにまちづくりセンターとか学校とか、そういうものをくっつけていくことは不可能ではないです。どこが起爆剤に

なるかですから、それはもう議論を始めました。定期的に開催しながら、何とか19年度中に一つでもできるような方向をとろうということまでは意見が一致しています。何をやるかはこれからの議論です。今、3人で会ったところから少しずつ広げていかなければならないと思っております。

原田委員長 円山動物園がやろうとしていることは一種の社会的な環境教育というような問題も含んでおりますので、学校は非常に重要なパートナーになっていくのではないかとこのように思います。

ほかにご質問、ご意見はございますでしょうか。

原委員 一つ聞きたいのですが、基本構想のイメージ図というのが中に入っていますね。この中に、今回亡くなった象のイメージがそのまま残っている状態ですが、市民的に見ますと、これは、これからも象がいるのかなというイメージがすごく大きく感じられるのです。この辺はこのままでというふうにお考えでしょうか。

金澤園長 市長の決定をもらった日が実は亡くなった次の日で、もうここまで来たら今さら差し替えはきかないかなと思いつつやっていますので、一たんこのまま出そうと思っています。

服部委員 それは、原委員がおっしゃったように、緊急的な課題がその中に入ってるわけですからね。今言われたように、まだ象さんが続くのかなという誤解を生じさせる嫌いがあると思うのです。

小宮委員がおっしゃられたように、今後は繁殖というテーマでないと、1頭では無理ですよということも周知されてきています。その中で象さんゾーンを残すとすれば、まだということも考えられるわけですが、その辺は時間的な問題はあるのでしょうかけれども、こういう緊急的な物事については修正も可能ではないのかなという感じがします。そういった意味では、私は、修正しておいた方がいいのかなという感じがしますが、いかがでございますか。

象さんは2頭もしくは3頭、4頭というようなレベルになれば相当な費用の部分が出てきますから、そうすると全体の構想をもう一回考え直さなければならないという部分も出てくるのではないかと。

小宮委員 だから、もし絵をかくのだったら、もう少し広くして、象を群れでと。

これは、日動水でつくった象の今後の飼い方についての基準ですが、総会のときにそちらにお渡ししたと思います。それから、世界動物園水族館協会(WAZA)のものはもっと厳しい。渡辺先生にお渡ししてあるので、コピーをして皆さんに読んでもらうとわかると思います。

要するに、それが問いかけにはなるかなと。これからの飼い方として、シンボル動物として一生飼育 象だと半世紀ですからね。そういうことは、これからはあり得ない。そういうときに、反対にパブリックコメントでみんな回答しやすい。やっぱり北海道に象さんが欲しいのだと、やっぱりそのとおりで、象を1頭で飼うのはかわいそうだとか、や

るなら群れで飼いたいとか、この動物園の姿勢が問われるような回答も多く来るのではないかなと。たまたま花子がこういうことになりましたのですね。

笠委員 象は道内にはいないのですか。

金澤園長 帯広と釧路にいます。ただ、アジア象は帯広だけです。

小宮委員 戦後、象を飼い出して、みんな1頭で飼っていて、50年たって、これからは1頭で飼っているところはもうだめだし、インドもタイも1頭では輸出しないということになっていますからね。旭川はもうやめましたから、反対に円山はやるよということで、群れで飼う施設をつくるのだというのも一つのあり方かもしれない。

ただ、構想なので、基本計画になったときには別ですけれども、具体的な動物の名前が構想のところで出ていたので、やはり象というところになるのかな。

金澤園長 まだ札幌市として意思決定していないので、私の個人的な意見だけを先に申し上げます。

やっぱり象を飼うというのは、小宮委員から話があったように、施設を含めるとそれこそ10億円、20億円という世界にきつとなると思うのです。そうすると、それは、動物園なり札幌市として簡単にやるかやらないかの判断ではなくて、動物園として考えたときに、象のいない動物園というのはちょっとねという話がきつとあるとあっていて、ある種の必須アイテムなのかなという気がしますが、それだけのお金がかかることをしっかり市民に見せて、市民意見を問うべきだと私は思っているのです。その中で、それだけ金をかけてもいいということであれば、施設をつくって飼う、象を輸入するという仕掛けにするのがいいのではないかと。

確かに、動物園に象がいないと絶対に変だよねというのは私もわかります。そういった意味で、今、お金の使い方というのは、市民もきっちり納得しないと、何ぼ行政の判断でいいと思ってもなかなかご理解いただけないところがあります。住民投票ではないですけども、そういう方法が必要ではないのかと私は思っているのです。

笠委員 現実的に、象を群れで飼うとなると、面積というのは相当の坪数かかるわけでしょう。

小宮委員 話が違ってしまいかもしれませんが、日本の動物園は、タイやインドから象が来て、現地のやり方をまねして飼っていますけれども、僕は、この間ドイツに行って、そうではないやり方もあるのだなと。室内で群れで飼っているのです。要するに、象は群れのものだから、1頭で飼うというのは残酷なのだ、群れで仲間がいて初めて穏やかに過ごせると。だから、夜も1頭ずつ個室に入れなくて、要するに、体育館みたいな放飼場を持っているのです。

なぜドイツかということ、やっぱり緯度なんかは札幌よりももっと北なのですね。つい、もらうところのタイやインドのことを参考にして今まで飼ってきたけれども、100年飼っているのにアジア象は日本でふえていないのですよ。ということは、やっぱり飼い方を間違えている。

なぜかという、ドイツに行ったら、群れで飼っているところはみんな子どもがいたと。だから、その核になる大きな施設をつくるのだったら、そこで飼うべきだと。日本から象がいなくなるよりはね。ただ、今までと同じように1頭で置くなればやめた方がいいだろうと。また半世紀後にどこかからもらうということで終わるだろうということなのです。

笠委員 要するに、現実的にはここでそんな大面積が入る余地はないということなのですか。

小宮委員 ほかのことをやめればいいのです。ドイツの動物園は、やっぱり象の大事さを知っていて、ハンブルグのハーゲンベックという古い動物園は、象の隣にカバがいて、その隣にサイがいたけれども、ほかのものをあきらめても群れで飼わなければだめだということになって、全部、象にしてほかはやめたのです。

そういう意味で言えば、サイだったら旭川で見てくださいとか、ドイツだと、ベルリンでそれを見てくださいという話だと思うのです。

山本委員 そうなると、円山動物園だけの判断でなくて、日本の動物園の中でどこが何をするかということですね。

小宮委員 ゴリラなんかはそうやっています。特に、群れでというものは群れで飼えるスペースをつくらないと。

ただ、群れで飼えば相当な魅力にはなりますよ。要するに、ドイツの動物園ではみんな最低10頭持っていましたから、それで子どもが3頭とか4頭いてね。

このままだったら、特に北海道の動物園はこれから象は全部いなくなると思います。

山本委員 そうすると、例えば環境省としてそうした方がいいと。

小宮委員 環境省は、世界の中の保全の話にどう関係するかどうかから、環境省に対しても、こういう理由で絶対に繁殖に結びつける飼い方をするから許可をくださいと。それから、経産省にも必要なわけですね。それから、向こうも、それだけの施設をつくらなければ出せませんと。

山本委員 今、私はちょっとお財布のことも委員の一人として考えているので、そういう国の中でのポジションみたいな話になってくると、札幌市だけのお財布ではなくて、違うところのお財布も使えるのかしらということを考えたのです。

小宮委員 それは、反対にオオワシとかだったら環境省もあり得るかもしれないけれども、象ではないと思います。外国の動物に関しては。

山本委員 今みたいな状況のときには判断するときに大事ですね。

金澤園長 だから、そういったものもみんな含めて市民にきちっと出して賛否を問う、そういうやり方をせざるを得ないのかなと。

小宮委員 変な話だけれども、花子のことがあったから、市民には.....。

金澤園長 ちょうど問やすい時期だと思いますが、今、このパブリックコメントは別な時点での整理をしなければならぬかなと私は思っています。

服部委員 小宮委員がおっしゃったことは当を得ているのだろうと思うのですが、飼え

るということであれば、3頭か4頭ぐらいの絵をかき込んでおくと。構想ですからね。

原委員 逆に、今の状態をそのまま伝えるというのであれば、これをつくった時点で象はいたけれどもということ、ただし書写的に、こういう予算とか群れ飼いが必要だということから今は考えていないということをはっきり出した方が、市民から意見をもらいやすいのではないかと思うのです。

金澤園長 考えていないということをするのですか。

原委員 考えていないということによって、市民側からはそれは困るということで、また意見が……。

金澤園長 基本構想は、動物園の将来をどうするかという議論であって、象をどうするかでないのです。基本構想中で象の話をしてしまったら、そちらに話がシフトして、象だけの議論になるのがすごく心配なのです。今、全体の議論をしたいのです。そして、円山動物園はどちらへ向いていくかということを整理したいのです。今、感情的な部分もあるから、情の部分があるから、それを入れてしまったらみんなそっちの話になって、ほかの方は全くなしになってしまう気がするのです。

それであれば、別な機会に、実施計画とか何かをやっていくときに、もう一つは、さっき言いましたけれども、きっとパブリックコメントでいろいろと返ってくると思いますが、さらに実施計画をやっているときにはまたいろんな意見が出てきますから、私はそういったところでも市民参加してほしいと思っているから、そういったところで象は象の議論をしていくべきではないかと思います。それをごっちゃにしていいたら、逆に言うと、市民が基本構想を納得するかしらないか、全く判断がつかない状態になるのではないかなと思うのです。

岡田委員 基本構想案とは分けて意見を募ればよいと思うのです。やっぱり群れ飼いするには広い面積が必要で、これからの実施計画にもかなりの影響を及ぼすと思いますから、なるべく早い時点でこれから象をどうするかという意見を募った方がいいと。

金澤園長 それだとわかるのです。

小宮委員 基本構想は、必ず絵はかいてあるけれども、そのとおりにならなくていいと言うのはおかしいですが、基本計画がしっかりして面積なんかが決まってくるので、問いかけるものは全部入っていた方がいいかもしれないですね。

原田委員長 私は、はっきり申し上げますと、何もそれによって動く必要はないというふうに判断しております。

といいますのは、この計画は、行政監査の指摘に始まって、円山動物園を今後どのように再生をするかという問題で、再生の基準、基盤になっているところで花子の存在がどうかということが問われていたわけではなかったということが1点あるわけです。

それから、この構想が立案された時点で花子は生きていたということがありますね。それが2点です。

そして、これを問うときに、この構想を立てるに当たって、動物の選択と集中でしたが、

そういう課題は出てまいりましたけれども、そこでも、一応このような絶滅希少動物、危惧される動物にはどういうものがあるのかというあたりの意見も出されたと思いますが、具体的には、この構想の中で、どういう種を保存し、どういう種を再生し、どういう種を維持するのか、アジア・アフリカゾーンの種としてどういう種類を分類するのかということについても細かい検討は一切していないわけですね。そういう検討なしに、花子問題だけを取り上げて緊急に問いかけると、園長がおっしゃるように、この構想自体の是か非か、あるいは、それに対する意見というものがちょっとわき道にそれて目をそらされてしまって、構想計画に対する市民の意見が集まりづらくなるというふうに私は考えます。

だから、花子のその後をどうするかという問題については、花子の問題と同時に、改めて、動物園全体で飼育すべき動物の種の選択と集中という問題を含めて考えるべきだろうと思います。そのときに、これだけの頭数が必要であるとか、1頭で購入できた時期から随分時間がたって、現在ではいろいろな国際的制約もかかっていることをきちんと説明した上で、動物園で飼うべき種について総体として検討を図るためのパブリックコメントを市民から集めるべきだというふうに思います。

したがって、今回は、この基本構想に対する市民の意見を集める、それによって修正をして、3月末に策定する構想がこれでいいかどうかを問うためのパブリックコメントの収集ですから、この非常事態といいますか、それに余りとらわれることなく進めるべきであろうと。そうしないと、ずれ込んでしまってまともにならなくなったら、その方が問題だというふうに私は思います。

象のその後については、改めて基本計画等で検討を進め、それから、全体の種の検討も含めて考えていくべきであろうというふうに私は思いますが、この考えについてご意見がありましたらお伺いしたいと思います。

ここに図がかいてありますが、よくこの小さなゾウを見つけていただいたなと思うのですが、岩のような、ちょっと色を変えてありますが確かにこれはゾウなのです。この構想をつくった時点では、確かに象ここにありと描いてあるわけですが、これはこれをつくった時点ということで、花子をどうするのですかという意見が集まったとしても、これは構想計画に対する意見であって、本当にそれをどうするかという問題ではないというふうに考えていきたいと私は思っております。飼育のためにはいろいろな条件が附帯されているわけで、そう簡単ではないわけですね。だから、逆に、これと同時に、今、いませんがどう考えますかというような意見を付加すべきではないであろうというふうに私は思います。

大谷委員 私もそれに賛成ですけれども、冒頭に、園長の方から、パブリックコメントの回答予想で、もっと具体的な案が出てくるのではないかというお話でした。それは、何度も何度も重なることは避けて、あわせて、その時点でもう一度問えばいいと思うのですが、その際には、先ほどこで披露された情報、象は集団で飼わなくてはいけないとか、世界の趨勢だとか、日本のほかの動物園はどうしているかという、そういった追加情報

をもっと与えるべきだと思います。

原田委員長 それでしたら全く賛成です。

きくち委員 私も、パブリックコメントを求めたときには、単純に象の話はたくさん出てくると思うし、正直に申し上げて、象がいなくなった、では次の象が来るのかなと単純に考える人の方が多いと私は思うのです。しかし、集団でなければかわいそうだよということをさっきおっしゃいましたが、そうなのかと思ったり、半世紀も生きてるのだよと言われて、半世紀も生きていたのだとか、知らないことばかりなのです。ですから、もっとそういう情報や、そのためにはこうなのだよというようなこともいっぱい教えていただかないと、何か、飽食の時代だけに、これが死んだら次のかと皆さんは思うのではないかなと思います。

原田委員長 そのとおりだと思うのです。確かに、花子に対してどうするのかという意見とか、当然来るのでしょうかねというような意見も添えられてくるのではないかと思うのですけれども、それについて、真っ向からイエス、ノーみたいな返答はすべきではないと思うのです。検討以前なのです。そうした課題については、基本計画等で具体的に取上げるといふふうな形がいいのではないかというふうに私は思います。

原委員 同意します。

山本委員 いいと思います。追加情報はできるだけ早くホームページにアップするとか、そうしたらいいと思います。

原田委員長 そういうことだと思います。

ほかに。どうぞ。

笠委員 この図の中で、自然体験野生復帰ゾーンというふうに書いてありますけれども、前の段階から野生復帰でしたか。自然復元という言い方をしていたと思うのですが、野生復帰という言い方をしていましたか。

金澤園長 野生復帰ではなかったですか。実は、ずっとこの言葉で覚えていました。

笠委員 そうでしたか。前のものを見ていて、どこかに出ていたと思うのですけれども、余り野生復帰というイメージがこの中には入っていなかったもので……。

金澤園長 オオワシとか何かのときは野生復帰という言葉を使っています。野生復元は、野生を復元はできないので……。

笠委員 白い点線のエリアというのは、園外まではみ出しているように見えるのですけれども、どうなのですか。この入り口のところは、たしか公園の方ですね。

金澤園長 実は、動物園のエントランスというのは、ここまで動物園の土地なのです。余り大きな声では言えないのですけれども、一般的に皆さんがロータリーを使っているところは動物園の土地なのです。

笠委員 円山の登山道に上がる道というのはオープンエリアに入っていますね。今、たしか橋のところにフェンスがありますね。

金澤園長 ありますけれども、川があって、ちょっと越えたぐらい、この奥は山側で、

西町になるぎりぎりぐらいまでなのです。

笠委員 ここまでではなかったですか。

大谷副園長 これが川なので、多分、これが道だと思いますね。だから、距離感がちょっと違うかもしれない。

金澤園長 どっちにしてもイメージなのです。

原委員 市民としては、文章よりイメージの方がすごく大きくインパクトがあるのです。

金澤園長 イメージは大事なのですが、委員長に本当にコンパクトにしてもらって、1枚におさまるようにしてもらいました。それぞれ拡大して何枚にもなったら、もっと細かくなってしまいます。それこそ、今度は具体的な議論になってしまうので、それは私らはとてもまだできません。

原田委員長 これは全くの参考図です。

笠委員 意見が来るのが楽しみですね。

金澤園長 本当にどんな意見が出てくるかというのは、出てきてびっくりする意見が出てくるかもしれない。そうなったらつらいかなと思っています。

原田委員長 この図ぐらい添えておかないと、文字ばかりで何だかよくわからないみたいなおところがあると思ったのです。

実は、市長に報告書を提出するとき、報告書と同時に、これ1枚をお見せしたのです。そうしましたら、いろいろ報道関係の方も、報告書を全然見ないで、こっちばかり写しているのですね。実は、これはまだリスタート委員会できちんと承認されていないものだから、これは出さないでくださいねということで、彼らもかなり不満顔でした。

でも、これで市民の声がフィードバックしてくればこれでいきますと、構想としてあくまでも参考図なのですけれども、こういう参考図をスタートとしたいということで公にできるだろうというふうに思います。

笠委員 ぜひとも、各学校の先生には1部ずつ出すぐらいのつもりで全市内に出した方がいいのではないですか。先生方が見てくださらないと、生徒も連れてこられないです。

金澤園長 もう少しすると別な絵になります。実施計画というか、基本計画をつくり出すともっともっと変わっていきますのでね。

原田委員長 ほかにご意見、ご質問がございますでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

原田委員長 なければ、このような札幌市円山動物園基本構想案ご意見を募集していますという形でパブリックコメントを求めることをご承認いただきたいと思います。

(「異議なし」と発言する者あり)

原田委員長 ありがとうございます。

それでは、きょうの次の報告でございますけれども、私の大学には、1年生だけですが、今デザイン学部に80名ほど学生がおりまして、さらに高等専門学校の学生が一部加わって、その学生たちに動物園を見学してもらい、18歳から19歳ぐらいの年齢の人たちが

この動物園に対してどのような考えを持っているか、解析してみた報告書ができましたので、それをごらんいただきたいと思います。

動物園を見学したのは11月7日でした。レポートの提出というのは、ホームページ上でフォーマットがございまして、そこに記入をして送信をすると教員のところにすべてのレポートが届くというシステムで行いました。

これを実施していただいたのは、デザイン学部の張先生と酒井先生のお二人ですが、お二人は違ったテーマで調査をいたしました。一つは、ここにありますように、あなたは動物園の動物に対してどういう経験をしてみたいですかという非常に抽象的な問いかけですけれども、タイトルと簡単な説明をくださいという課題です。同時に、二つ目の質問がありまして、人間と動物の感性的かかわりを生み出すきっかけを提案くださいというもので、タイトルとその根拠と内容と方法について述べよ、こういう二つの課題です。

1年生に対する大学の授業の課題でこんなを出しているのかとお考えでしょうが、この結果をぜひごらんいただきたいと思います。

ホームページ上にはこういうウェブチューブというシステムがございまして、こういう問いかけで、下に赤線で囲ってありますけれども、ここは重要な点ですが、あなたが提出したレポートを動物園などに報告することについて同意するかどうかチェックしてください。これをやらないと、後から、私はいいと思っていたのに、何で公開したのだというクレームがついて大問題になりますので、必ずこういう項目を添えてあります。同意します、同意しませんというチェック項目ですね。

その結果、このように、同意するが84人です。同意しません7人というデータが自動的に集計されます。

これからお見せいたしますのは、同意するという学生79人分のレポートの中でのそれぞれの回答でございます。

一つは、あなたは動物園の動物に対してどういう経験をしてみたいですか。動物の鳴き声を聞きたい。動物の卵を食べ比べたい。動物と他の動物の触れ合いを見たい。動物園と遊園地で一緒に遊びたい。動物にえさをあげたいではなくて、えさをもらいたい。それからふ化・出産の瞬間を見たい。動物の毛をさわりたい。動物同士のレースをしたい。動物をいろんな角度から見たい。動物の近くにイーゼルを置いてスケッチしたい。そんなようなことが素直に書かれています。

この中から、今の提案10項目の中から一つだけやってみたいということを提案してください。感性とのかかわりを生み出すきっかけの提案をくださいという二つ目の質問ですが、この学生は、動物スケッチと絵画鑑賞会を行いたいという提案が書かれていました。こんな方法でやりたいという内容が書かれているわけです。

二人目の学生は、実際に動物と触れ合う場が欲しい。動物たちがどんなものを食べているのか実際に知りたい。動物が持つ本来の野生の姿を見たい。能力比べをしたい。それから、動物園宿泊ツアーに参加したい。飼育係を体験してみたい。ファッションショー、Mal

というのは円山のMalですね。Mal・Colleファッションということを行いたい。羊の毛刈りをしたい。それから、動物の手形を集めて回りたいというスタンプラリー、それから、ピクチャーラリー、写真を撮って自分の好きな動物の写真を集めてみたい。そんなようなことで、1案に絞って、具体的に計画する内容は動物たちがどんなものを食べているのか実際に知りたい、その方法はこのような方法ですということが書いてあります。

3人目は、提案の方だけを言いますと、円山動物園の動物と携帯メールをしよう。動物はメールを出せませんので、飼育係がかわりに、動物の気持ちになってメールを出すということなのですね。これはなかなかいい発想だと思うのですが、そうやって少しでも動物のことを知りたいというわけです。具体的にはこんな方法でやってはどうかということでございます。

それから、4番目の学生は、動物とおしゃべりをしたいと言っているのです。パウリಂಗルとか、犬の鳴き声の翻訳機みたいのがございますね。それを逆にすれば、こういうことを言いたいというときには、ワウワウといったような声を発すれば犬に伝わるのではないかと。そういうことであれば、カバのある鳴き声にもやっぱり意味があって、お腹がすいた鳴き声と、怒っているときの鳴き声と、寂しいときの鳴き声と、うれしいときの鳴き声ぐらいあるのかもしれないけれども、そういう鳴き声集を翻訳するというような仕事も少し時間をかければできるのではないかと、全動物、全種の鳴き声をそういうふうにつくり上げておしゃべりができるのではないかと、そういうようなことでございます。

それから、アニマルセラピー等、人のいやしにつながるのではないかとということです。

それから、北海道絶滅危惧種を保護、繁殖させて自然に帰す。そういうことをぜひやってみてほしいというような提案もございます。

それから、動物園リバーズということで、動物と人間の立場の逆転というものを行いたい。だから、動物をおりに入れるのではなくて、人間が通れる細い道をつくって、そこに人間を閉じ込めて、動物を自由に外で放牧させるというような考えですが、そういう提案をしている学生もございます。

そういうことで、実はいろいろな提案がここでされているわけですが、左側は何をしたいという項目です。右の横軸が学生79人分です。その学生たちは、この項目を1個ずつ、何をしたいのかチェックして、したいものを1、上げていないものを0というふうにするとこういうデータリストができるのです。そのデータを多いもの順に並べるとこういうことになります。プリントの方にすべてデータが添えられておりますので、後で細かく見ていただければと思います。

今、この散布図をつくります。散布図をつくるためには、それぞれの項目、してみたい項目のスコア化をして計算するわけですが、このようなピンクの2列のスコアの行列を使いまして、それをクラスターリングという階層分析をします。クラスター分析を行うと、このようなグループになって、それによってさきの項目群がグループ化されます。このようにして結構きれいなグループになってきますが、そのグループに名称をつけて、

この79名の学生たちが大まかにどんなことを望んでいたのかというのを集約することができます。

それをご報告するということになるわけですが、まず、Aのグループは、自然の森で群れの生活を見たい。Bのグループは、飼育員の調教や動物との触れ合いを見たい。Cのグループは、動物に触れたり、一日一緒に生活して、えさやりしたり、夜の生態や野生のままの動物を近くで見たいというグループです。それから、四つ目のグループは、環境をよくして、動物の狩りや出産などを近くで観察したい。五つ目は、広いところで動物に乗ったり散歩したりして遊びたい。六つ目は、動物の世話をしたい。七つ目は、一日飼育員や動物と人間の能力比較、スタンプラリーなどをしたい。それから、最後のグループは、ファッションショーや動物図鑑をつくりたい、こういうグループに集約ができたということでございます。

AからHまで、このようなことをやりたいというふう集約ができましたけれども、そこで、具体的に提案をなささいという二つ目の質問項目に回答したもので非常に似たものを集めてみますと、人間と動物の競技、つまり競争したい、力比べをしたいとか、競技をしたいというのが7件で一番多かったのです。それから、触れたり抱いたりしたい。それから、赤ちゃんを見たい。近くで観察しやすい環境、動物に乗ったりしたい。トナカイにソリを引かせたいとか、動物タクシーに乗りたいたいとか、あるいは、一日飼育員、ブラッシングをしたいだとか、自然のままの様子を見たい。誕生の瞬間を見たい。環境をよくしてストレスをなくして動物を元気にしたい。それから、おりから出して広いところで放し飼いにしたい。成長の観察をしたい。自然に帰りたい。自然の森にしたい。動物と遊びたい。それから、猿などを使って知性実験等をしたい。えさをあげたい。一日密着生活をしたい。動物同士の競技をしたい。動物としゃべってみたい。夜間の生態を知りたい日動物感覚で環境を見てみたい。動物の足にインクを塗ってスタンプラリーをしたい。複数件数は以上なのです。

79名のうち、複数以上の具体的な提案項目をびっしりA4判に書いたのはこういうことでかなり具体的な方法を伴っているもので、彼らがやってみたいというのはこんなようなことであつたと。こういう感性的なことや、動物は言葉を持っていないので感性的なかわりをもっともっとふやしていきたい、具体的にはこうすればいいではないかという提案がこのようにされているというわけでございます。

あと、1人だけの意見としてはこういうものがあつた。ただ、複数ではないので、同意を得られていないようなものには、このような提案がつけられています。

先ほどのものは張先生の実施された調査ですけれども、これからご覧に入れますものは、酒井先生の動物園調査で、これも79名の回答をいただきました。内容を見てみますと、この先生は、集客力を向上させることを阻害する要因を挙げよという質問なのです。学生たちが動物園を見た後で、阻害する要因は何なのかと。

園内がわかりにくい。デザインが不統一である。施設に清潔感がない。施設や設備が老

朽化している。コンセプトが不明確である。入場時の期待感に乏しい。動物の存在やイベントなどの宣伝が不足している。建物やケージの外観や内部の印象が暗い。案内板設置の高さが子どもの視線を考慮していない。動物と無関係な展示物がある。手づくりの掲示板等の完成度が低い。清掃用具や備品が観客の目に触れるところに置いてある。従業員の態度が問題。動物臭が強過ぎる。動物のいないケージがある。おりに入れられた動物がかわいそうな印象を受ける。動物との距離が遠い。動物が見にくい。雨のときの見学施設、休憩施設が少ない。見せようという姿勢が感じられない。ホームページがわかりにくい。道が歩きにくい。それから、剥製が不気味な印象を与える。食堂に魅力がない。これが複数以上の阻害要因項目ということが挙げられています。

それからもう一つは、集客力を向上させるのに寄与する要因を挙げよということで、円山動物園に客が集まるのはどういう項目、要因なのかということについて見ています。

それは、立地条件がよいから。周囲の自然が豊かだから。それから、猿山の休憩施設が魅力的だから。動物の種類が多いから。イベントが豊富だから。あとは1件というようなことです。

学生は、半日ぐらいでしたか、そんなに長い時間行ったわけではないですけども、18、19の年代の若い人たちが動物園を短い時間見学して何を考えたかの一端をご紹介します。

ということでございますが、これについて何かご質問ございますでしょうか。

時間があれば、またプリント等をごらんいただければというふうに思います。

以上で学生たちの動物園に対する調査報告は終わらせていただきます。

これをもってきょうの議題を終わりたいと思いますが、少し時間がございますので、これだけは意見として言っておきたいということがございましたら、この際、ご意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

原田委員長 ありませんようでしたら、次の議題の日程調整に入らせていただきたいと思います。

それでは、園長、お願いします。

金澤園長 次回の日程ですが、3月下旬を予定しております。3月16日までパブリックコメントをやっていきますので、意見が来た都度、集計しながら間に合わせたいと思っております。後日、また日程調整をさせていただきたいと思っております。そして、この次の議題は基本構想案の案がとれる状態で出していきたいと思っております。

それから、今回、委員会報告並びに基本構想の間の中で、行政案の23ページに、基本構想実現のため経営体制の確立ということで、その主な取り組みの中で、実は、リスタート委員会の任期は、この基本構想ができるまでの任期になってございます。ただ、その後、この基本構想がきちっと進捗しているかどうかをチェックしたり、経営を改善しますと言っていますので、そういったところをしっかりと検証していく外部委員会もつくったらとい

うことが今回提案されておりますので、そうした取り組みについてきちっと準備を進め、次回はその辺も出すようにしていきたいと思っています。

私の方からは、以上です。

原田委員長 ただいまの園長のお話について何かございますか。

(「なし」と発言する者あり)

3. 閉 会

原田委員長 それでは、次回の議題はそういうことで、また今後についてもそのように進めさせていただきたいと思います。

それでは、長時間、どうもありがとうございました。

以 上